

会員の広場



初めて柴犬を飼ってみて

小長井孝（東京）

我が家に「ハル」が来たのは、今から8年前の3月末だった。メスの柴犬で母親は菊姫号だそう。家内は子供のころから一度でいいから犬を飼ってみたいと望んでいたが、さまざま事情で実現せず何十年もが過ぎた。娘たちも巣立ち、還暦を迎えて、残りの人生を考えると飼うのは今しかない！と決心しようだ。なにしろ最近では食糧事情（餌）が大幅に改善され、我々

人間と同じように犬も非常に長生きするようになった。であれば家内が自分の余命と犬の寿命とを競争関係にあると考えたのも無理からぬことと思った。私も犬を飼ったことがなく、追いかけられたり手をべろべろ舐められたりが苦手でかなり躊躇したが、家内の熱意に負け、結局、飼うことになった。

ハルは2004年1月19日生まれて間もなく9歳になる。人間で言えば40代後半でアラフォーという時期は過ぎた。生後2カ月半の時、地元のペットショップで手に入れた。初めの1カ月は大き目のケージに入れて玄関に置き、その後は庭で飼うようにした。子犬であつても日本犬らしい狩猟本能はすさまじく、うっかり手を入れようものならば噛みつかれそうで、凄みさえ感じられた。大小屋はケージを骨組みに屋根はベニヤ板製、通風壁を取付け、さらに内装にはダンボール箱を活用した。DIYを趣味とする私にとっては、楽しい作業だった。時々屋根の塗装替え等を行う。冬に

なると内部に分厚い断熱材で保温対策もする。

ペットショップの店主から、犬を飼うのは人間（飼い主）の生活リズムに合わせるのが大事と教えられ、このアドバイスがたいへん役に立っている。犬のかわいさに負け、犬の要求に応じているとそれが習慣となり、飼い主が犬の言いなりになってしまう。散歩中に犬仲間に会おうが、犬優先の生活リズムに振り回されている方が結構いる。我が家は、散歩は午後から夕方にかけて1回、時間は不定期。餌は一日2回。狭い敷地だが、放し飼い。散歩ができない時は猫の額ほどの花壇で排泄を勝手にするので、特別困ることはない。

ハルは健康体で、動物病院に行くのは年2回のワクチン接種やフィラリアの予防薬をもらう程度である。最近よく見かける小型の洋犬は、食が細く病氣もしばしばとのこと。それ故、動物病院の上得意らしい。

ハルは今では我が家の「三女」として、家族の一員であり、夫婦二人の生活では欠かせない存在だ。飼い

主に媚びず自己主張がある。水が極めて苦手で、雨たの散歩を頑として拒む。しかしある時、近くの彩の森公園（米軍ジョンソン基地跡地）の散歩のとき、亀を見つけ、興味津々かつ慎重に池に入って行った。水が苦手なのに自ら池に入るのは驚愕と感動以外の何物でもない。以後そこに行く度に池を周回し、生き生きとした顔つきになる。飼い主として共に喜びを覚える。

甲羅干し中の亀に恐る恐る前足で触ろうと何回もちよっかいをかける仕草が面白い。居合わせた人々も興味深く眺める。また散歩中、衣服着用の犬を時々見かけるが、ハルは首にバンダナを着けるのみ。これが単なる飾りに留まらず意外と役に立つ。草むらでくくんやるのは犬の常なる習性だが、バンダナは首周りの汚れ防止に実に効果的だ。

毎週金曜日は経済倶楽部講演会なので、散歩は夕方になる。今時はすっかり暗くなり懐中電灯持参だが、ハルのうれしそうなる顔を見ると一日の疲れが吹き飛ぶ。